令和 3 年度 大田区立南六郷小学校 自己評価 報告書

令和4年3月1日

○ 本校の概要

″○学校規模（児童数382名、学級数 12学級、教員数 17名）
○特色 児童も教職員も保護者も、誰もが「かつやく」する学校を目指しています。
児童は一人一人がそれぞれの力を発揮して、一生懸命学んだり活動したりし、主体的に学びます。 教職員は「わかるまで教える」 教材を工夫し、意欲を引き出し、伝え合い学び合う場を設定します。 保護者は「学びを支える」 規則正しい生活で、家族の時間を大切にし、夢や希望を育てます。家庭・地域と連携をし、地域力を生かした教育活動を推進しています。
○「知・徳・体」のバランスのとれた教育を目指しています。今年度は特に「学力向上」を重点として取り組み、児童の確実な基礎学力の定着を図ります。
○校区を流れる多摩川を活用した活動（異学年交流・マラソン大会・たこあげ・自然観察等）を通して自然環境への関心を高めます。また、理科教育推進拠点校として、特に「理科・生活科」の学習において、「進んで問題を見つけ、解決することができる児童の育成」を目指します。
○国語の学習において、「自分の考えを伝えるための表現力の育成」を目指します。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上が回答した。 2：60％以上が回答した。 1：60％未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「タブレットを使って調べ学習ができる」において、「よくできる」「どちらかというとできる」と回答した児童の割合	4：90%以上 3：85%以上 2：80%以上 1：80%未満	3	・学習で、タブレットを活用する場面が多くなり、調べたいことがすぐに調べられるようになってきている。また、調べたことを発表する時にタブレットを活用する経験をさせることで、パワーポイントの作成にも意欲的に取り組んでいる。ICTサポーターや教員によるICT研修も行い、教師の指導力も高まってきている。 ・ものづくりを教科横断的に年間指導計画に位置付け、計画的に実施している。	A	6	・今年度の取組を継続してください。 ・タブレットの扱いが不適切で、発煙を起こしているのではと危惧しています。ご指導ください。 ・先生方の指導力の向上により、子どもたちも積極的にタブレットを使う姿勢が家庭でも表れているように感じます。学校内だけでなく、家庭においても積極的に活用を図っていく上で、保護者向けの講習などあると良いのではないかなと思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80％以上の教員が行った。 2：60％以上の教員が行った。 1：60％未満であった。	3					B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80％以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60％以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60％未満であった。	4					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80％以上で行った。 2：60％以上で行った。 1：60％未満であった。	4					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4							
		サポーターを活用し、調べたいことを検索する力を付けられる授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80％以上で行った。 2：60％以上で行った。 1：60％未満であった。	4							
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80％以上で行った。 2：60％以上で行った。 1：60％未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「授業が楽しい」「内容がよく分かる」において、「よくあてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した児童の割合	4：85%以上 3：80%以上 2：75%以上 1：75%未満	3	・毎時間、ICT機器を使い、視覚的に理解しやすい工夫を行い実施している。教科によって理解度に差があるため、学力テスト等での結果を分析し、指導方法を工夫していく。 ・授業の振り返りを必ず行うことで、授業の理解度も自身が把握できるようになっている。また、児童が、自分の得意・不得意な部分をしっかり把握することを習慣化させることが大切であることから、チェックシートを活用し、補習等で復習を行っている。	A	7	・今年度の取組を継続し、モチベーションを高めてください。 ・理科に興味がない児童が多いと聞きます。科学技術の進歩著しい現在、理科に興味をもつことのできるご指導をお願いします。 ・分かりやすい授業を行うだけでなく、補習や南六チャレンジなどの活用など、児童の理解度に合わせた対応が、成果指標に対して良い成果評価につながっていると感じます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3					B	1	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80％以上の教員が働きかけた。 2：60％以上の教員が働きかけた。 1：60％以下の教員が働きかけた。	4					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上が回答した。 2：60％以上が回答した。 1：60％未満であった。	4					D	0	
		問題解決的な学習方法を取り入れ、意欲的に学習に取り組ませる工夫をし、思考力・表現力を育成する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4							
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80％以上の教員が行った。 2：60％以上の教員が行った。 1：60％未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「よい言葉遣いができている」において、「よくできている」「どちらかというとできている」と回答した児童の割合	4：80%以上 3：75%以上 2：70%以上 1：70%未満	1	・道徳の授業などを通して、相手を思いやる気持ちを大切にすることを重点的に指導している。校内でも、代表委員会や異学年で挨拶運動を行い、気持ちのよい挨拶の励行をしている。今後も、教職員共通のもと生活スタンダードの重点目標を定めて、しっかり指導していく。 ・いじめの早期発見、早期解決に向けて全教職員で情報を共有し、指導に当たっている。学級集団をしっかりと把握し、気になる児童への適切な声掛けを行っている。また、児童の問題行動や不登校問題に関するケース会議を実施し、補助員を配置したり、組織的に対応したりしている。	A	5	・今年度の取組を継続し、成果評価アップに一考を要す。 ・言葉遣いや暴言が気になります。学校でできている挨拶を地域でもできるようになることを期待しています。 ・南六小の児童の挨拶は好評です。 ・人間関係が希薄な世の中とはいえ、こういう時こそ思いやりの気持ちを大切にし、希望に満ちた学校生活を送ってもらいたいと思います。 ・学校教育だけでなく、家庭において、しっかり教育ができているのかどうかが現れる指標だと思います。親に対するオンライン講座等、PTAにも協力をいただけると、さらに評価の向上につながるのではないかと感じました。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	2	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4					C	1	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		気持ちのよい言葉を遣うように、南六郷小学校スタンダードを徹底させる。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	3							
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4	生活の振り返りアンケートの「日ごろから運動に取り組み、体力をのばしている」において、「よくできる」「どちらかというとできる」と回答した児童の割合	4：80%以上 3：75%以上 2：70%以上 1：70%未満	2	・月間を通して、マラソンやなわとびなどを行い、体力向上に努めているが、休み時間や放課後に体を動かす児童が少なくなっている。今後も、授業前に補助運動を取り入れたり、体育時にも運動量を確保したりしていく。	A	5	・今年度の取組を継続し、学力の低い児童の底上げが必要。 ・冬は寒いと休み時間に外に出にくくなります。努めて外で遊ばせてください。 ・休み時間や放課後に体を動かす児童が少なくなっているというのが気になります。このような時代ですから、子どもたちには思い切り外で遊び、健康・体力の向上に努めてほしいです。 ・新型コロナの影響で、どの学校でも体力調査における結果が低下していると認識しています。休み時間や放課後、身体を動かすことを、さらに勧奨していただければと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4					B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4					C	1	
		オリパラ教育を実施するとともに、体力の向上のために一学級一運動の取組やマラソンやなわとび、休み時間の外遊びを励行し、体を動かす習慣をつける。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4					D	0	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4	保護者アンケートの「基礎的・基本的な学習の定着に向けた学習指導を工夫しているか」において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合	4：95%以上 3：90%以上 2：85%以上 1：85%未満	3	・教員が、区以外の研究会になかなか参加できずにいるため、区研究会での情報を校内での研究に生かしたり、研修を実施し、共有している。 ・校内研究では、主題を表現力の育成とし、書くことや話し合い活動を通して自分の考えをしっかりもつことができるようになっている。しかし、学習した内容を生かして考えることがまだ不十分であるため、内容が定着できるように工夫していく。	A	7	・コロナ禍での可能な取組を継続してください。地域の教育資源を活用してください。 ・国会中継を見ていると、政治家の言葉の素晴らしさを痛感します。児童が言葉を正しく遣えるようご指導ください。 ・保護者アンケートで、90％以上の方が良い評価をされたことは、先生方の教育の賜物であると感じます。内容の定着に課題があるとのことですので、引き続き改善を期待しております。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					B	1	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	3					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					D	0	
		校内研究「自分の考えを伝えるための表現力の育成」に取り組み、教員の授業力と児童の学習環境の向上を図る。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上が回答した。 2：60％以上が回答した。 1：60％未満であった。	4							
プラン6 学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	保護者アンケートの「情報提供」「家庭との連携強化」「地域力活用」の全項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合	4：95%以上 3：90%以上 2：85%以上 1：85%未満	3	・学校だよりやHPで学校の様子を発信しているが、学校公開が例年のようにできないため、児童の様子等が分かりにくいと思われる。 ・学校支援地域本部とは連携し、授業に入ったり、人材提供をしてもたったりしている。	A	5	・コロナ禍で制約がありますが、できる範囲で頑張ってください。学校支援地域本部と学校、保護者が協力していきたいと思います。 ・公園での遊び方について、「黙食を」と言われている中、マスクを外し遊びながらお菓子を食べている姿を見ると、感染が心配です。家庭でおやつを持たせて遊びに行かせていることが分かります。保護者には、地域に関心をもってもらえたらよいと思います。 ・学校に足を運ぶことがほとんどなくなり、校内の様子を伺うことができなくなりました。何かあれば主任児童委員にお話ししてくだされば と思います。民生児童委員へとつながります。 ・新型コロナの影響もあり、保護者との連携の強化が難しい状況があるのも事実です。来年度は、給食室の改修もあり、保護者や地域の積極的な支援も必要を感じます。保護者の皆様の協力に期待しています。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					C	1	
		全教員が学校ホームページ「ウェブ日記」の作成に取り組む。学校での取り組みや児童の様子を積極的に発信する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	3					D	0	
		「10分×学年」を目安に家庭学習の課題を毎日与え、家庭学習の充実に努める。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。